

県警本部長から賛辞

交通死亡事故ゼロ6カ月

「宮城県警察本部長賛辞の贈呈」は3月24日、迫庁舎で行われ、熊谷康登米警察署長から熊谷市長に賛辞が贈呈されました。

市内では昨年9月24日以降交通死亡事故ゼロを継続。3月24日で交通死亡事故ゼロ6カ月を達成しました。熊谷市長は「達成できたのは市民の交通安全への意識はもとより、地域コミュニティや関係団体の努力のたまもの。交通死亡事故は、被害者だけでなく加害者も不幸にする。賛辞を励みに交通事故を無くす活動を続け、交通死亡事故ゼロを継続していきたい」と決意を新たにしました。



今年、県内で発生した交通死亡事故は被害者の7割が高齢者。今後も関係機関が協力して交通事故の根絶を目指します。

教えてペッパー先生

人型ロボから防災を学ぶ

ソフトバンクロボティクスの人型AIロボット「Pepper」が講師を務める「防災教室」は3月3日、浅水小学校で開かれ、5年の児童14人がペッパーから地震発生時の心構えなどについて学びました。

本市とソフトバンクは、2018年11月に農業、教育、健康増進や観光などの分野でICT(情報通信技術)やAI(人工知能)を活用し、地方創生につなげるための連携協定を締結しており、その一環として防災教室を実施。山内遼平君は「地震が起こったときに危険から身を守るための大事なことをペッパー先生から教えてもらいました。地震のときに実践したい」と話していました。



身振り手振りを交えて地震発生時に潜む危険や回避方法などを話すペッパー先生の授業に、児童は真剣に聞き入っていました。

幼児教育の環境整備 豊里・石越でこども園開園



左:石越にじいろこども園は高い利便性と木質を生かした感性の育ちをテーマに、最新式の設備を備え、園生活で木に触れる機会を重視したデザイン。子育て家庭の相互交流や育児相談も応じます。中、右:豊里こども園は登米市産木材を多く取り入れた、ぬくもりのある造りで、保育室を南面に配置することにより、日光を浴びながら明るい環境で保育が受けられるよう配慮しています。

「登米市豊里こども園開園式」が3月13日、「石越にじいろこども園開園落成式」は3月19日、各施設で開かれました。

市では、より良い子育て環境づくりに取り組むため「登米市子ども・子育て支援事業計画」を策定。計画に基づき、幼稚園・保育所の機能を一体的に提供する認定こども園の整備を推進しています。幼稚園・保育所の再編と併せたこども園の整備により、利便性の向上と安心して子育てできる環境が整います。

豊里こども園は、豊里幼稚園・保育園を再編統合。定員210人(幼稚園機能60人、保育所機能150人)の市初の公設公営認定こども園です。開園式に出席した

熊谷市長は「幼児期は人格形成の基礎を培う大切な時期であり、その後の小中教育につながる大変重要な役割を担うもの。子どもの個性に合わせた育ちとなるよう、今後も教育・保育の質の向上を図っていききたい」と話しました。

石越にじいろこども園(社会福祉法人未来、伊藤良雄理事長)は、石越幼稚園・保育所を再編統合した民設民営のこども園で、定員120人(幼稚園機能40人、保育所機能80人)。開園落成式では、伊藤理事長が「石越保育所・幼稚園の軌跡を受け継ぎ、石越の自然の中、登米市産木材をふんだんに使用したこの施設で、地域の皆さまと共に歩んでいきたい」と話しました。

震災を風化させない

3.11各地で黙とう捧げる

3月11日、東日本大震災から10年を迎えました。「東日本大震災南三陸町追悼式」は同日、南三陸町総合体育館で行われ、熊谷盛廣市長など800人が、気仙沼市総合体育館で行われた「気仙沼市東日本大震災追悼式」には、渡邊誠副市長など817人がそれぞれ参列。哀悼の意を表し、被災者に献花と黙とうを捧げました。

2011年3月11日午後2時46分に発生した地震により、30人の登米市民が亡くなったほか現在も3人が行方不明。負傷者は52人に及びました。建物被害は全壊201棟、大規模半壊441棟、半壊が1360棟。市では、震災を忘れず、今後も防災に取り組んでいきます。



各追悼式は犠牲者の冥福を祈るとともに復興完遂を誓うため、震災後毎年執り行われています。

探検みやぎの明治村

親子の目線でプラン検証

「『みやぎの明治村』ファミリープログラムモニターツアー」は3月21日、登米町内で開かれ、12人が参加しました。

市と東北工業大学は、登米町の観光誘客に向けて、歴史が残る町並みや建物を学ぶ親子向け学習プログラムを共同で開発。学習プログラムを利用した観光誘客の手法を検討するためモニターツアーを実施しました。参加した只野海吏君(11)＝登米町鉄東＝は「武士の家の特徴や登米町の建物に外国の技術が使われていることを知りました。渡された探検カードの問題を友達と解くのが楽しかった」と満足げに話していました。



ツアーは登米懐古館や教育資料館などを見学。参加者からは「資料がシールで隠れない工夫を」などの意見が出されました。